

# 目 次

凡例  
資料解説

## 一 蘆溝橋事件までの日中関係と対華政策の変遷

### 第一節 廣田外交の発足

#### 1 國策の樹立とその批判

一 滿洲問題処理方針要綱（閣議決定）	三
二 國際關係より見たる時局処理方針案（閣議決定）	四
三 海軍の対支時局処理方針	九
四 帝国国策（陸軍案）	二
五 昭和八年十月二十日五相會議に於ける陸軍側提示	二
六 対内國策樹立に関する国防上の要望（陸軍省軍事課）	四
七 対支靜觀主義放棄論（須磨彌吉郎）	五
八 対支政策に関する件（陸・海・外三省關係課長間決定）	三

九 天羽英二情報部長の非公式声明（東京朝日新聞）……………三五

一〇 昭和九年四月二十日の外人記者団に対する声明……………三七

一一 昭和九年四月二十六日英米大使に手交の声明……………三八

一二 天羽声明に関連する外務電……………三九

一 廣田外相→在外公館長（暗合第三〇二号） 二 廣田外相→在外公館長（暗合三〇三号） 三 廣田外相→齊藤大使、松平大使（暗合三〇四号） 四 廣田外相→須磨南京總領事（暗第三六号） 五 廣田外相→有吉公使（暗第一〇九号）

### 一三 声明の列国における反響……………三四

A 中 国

一 有吉駐支公使→廣田外相（第三〇八号） 二 有吉駐支公使→廣田外相（第三二六号） 三 有吉駐支公使→廣田外相（第三三一号） 四 有吉駐支公使→廣田外相（第三四二号） 五 須磨南京總領事→廣田外相（第三七二号） 六 須磨南京總領事→廣田外相（第三七三号） 七 中山書記官→廣田外相（第一七三号） 八 中山書記官↓廣田外相（第一七五号） 九 中山書記官→廣田外相（第一七四号） 一〇 栗原天津總領事→廣田外相（第一〇七号） 一一 堀内書記官→廣田外相（第三五二号）

B 英 国

一 松平駐英大使→廣田外相（第二〇九号） 二 松平駐英大使→廣田外相（第二一四号） 三 松平駐英大使→廣田外相（第二二六号） 四 松平駐英大使→廣田外相（第二一七号） 五 松平駐英大使→廣田外相（第二一八号）

C 米 国

一 齊藤駐米大使→廣田外相（第二二四号） 二 澤田ニューヨーク總領事→廣田外相（第五八号）

D フランス

一 佐藤駐仏大使→広田外相（第二三四四号） 二 佐藤駐仏大使→廣田外相（第二四一號） 四 佐藤駐仏大使→廣田外相（第二四八号）

E ドイツ

一 永井駐独大使→廣田外相（第七九号） 二 永井駐独大使→廣田外相（第八三号）

F ソ連

一 太田大使→廣田外相（第一九二号） 二 須磨南京總領事→廣田外相（第四一一号）

G ジュネーブ

一 横山ジュネーブ總領事→廣田外相（第八四号） 二 横山ジュネーブ總領事→廣田外相（第八六号）

一四 米国航空勢力の対華進出

西

一 塚本廈門領事→廣田外相（第五二一・五三三号） 二 中原廣東海軍武官→海軍次官、軍令部次長（機密第一七三番）  
三 中原廣東海軍武官→軍令部第三部長（機密第一七五番） 四 廣田外相→有吉駐支公使（暗第三九号）、廣田外相→守屋福州總領事（暗第一五号） 五 有吉駐支公使→廣田外相（第一一二号） 六 須磨總領事→廣田外相（第一四八号） 七 米国航空勢力の対支進出阻止と我が勢力扶植に就ての方策（軍令部第一部田結甲部員） 八 上海公使館附陸軍武官→參謀次長（支第一六五号） 九 臺灣軍參謀長→參謀次長（臺第一八二号） 一〇 海軍省軍務局長→馬公要港部參謀長（軍務機密第五九電）

第二節 梅津・何應欽協定と土肥原・秦德純協定

一五 北支に於ける反満抗日策動に基く日支両軍の交渉 其の一（軍令部）

右

一六 「北支交渉問題処理要綱」に關する外務陸軍間

折衝（昭和十年度外務省執務報告）より）

右

一七 北支に於ける反満抗日策動に基く日支両軍の交渉 其の二（軍令部）

一八 察哈爾省張北問題（軍令部）

十九 両協定成立に関する陸・海・外務電

一 川越總領事→廣田外相（第一〇七号）

二 天津軍參謀長→參謀次長

三 北平輔佐官→參謀次長（北第三八三

号） 四 北平輔佐官→參謀次長（北第三八四号） 五 若杉參事官→廣田外相（第一五六号） 六 川越總領事→

廣田外相（第一三八号） 七 川越總領事→廣田外相（第一三九号） 八 天津米國領事→國務長官、南京領事（特種情報第一四八号） 九 上海大使館附武官→參謀次長

一〇 上海大使館附武官→參謀次長

一一 天津軍參謀長

一二 北平沖野海軍輔佐官→次長、次官（機密第七一番） 一三 天津軍參謀長→參謀次長

一四 堀

内書記官→廣田外相（第四六〇号） 一五 北平沖野海軍輔佐官→次長、次官（機密第七三番） 一六 天津軍參謀

長→參謀次長 一七 天津軍參謀長→參謀次長 一八 北平陸軍輔佐官→參謀次長 一九 南京兩宮中佐→參謀次長

二〇 須磨總領事→廣田外相（第五五八号） 二一 若杉參事官→廣田外相（第一七四号） 二二 北平沖野輔佐官

↓次長、次官（機密第七六番） 二三 若杉參事官→廣田外相（第一七七号） 二十四 天津軍參謀長→參謀次長

二五 天津軍參謀長→參謀次長 二六 北平陸軍輔佐官→參謀次長 二七 天津軍參謀長→參謀次長 二八 天津軍

司令官→參謀總長 二九 藤原部員參謀本部ニテ聴取セル事項其ノ二 三〇 若杉參事官→廣田外相（第一一八七号）

三一 南京兩宮中佐→參謀次長 三二 天津軍參謀長→參謀次長 三三 天津軍參謀長→參謀次長 三四 関東軍參

謀長→參謀次長 三五 関東軍參謀長→參謀次長 三六 北平陸軍輔佐官→參謀次長 三七 天津軍參謀長→參謀次長

長 三八 北平陸軍輔佐官→參謀次長 三九 北平陸軍輔佐官→參謀次長 四〇 北平陸軍輔佐官→參謀次長 四一

北平陸軍輔佐官→參謀次長（第五二二号） 四二 天津軍參謀長→參謀次長 四三 北平輔佐官→參謀次長 四四

天津軍參謀長→參謀次長

### 第三節 廣田三原則の決定

一〇 対支政策決定の経緯（外務省東亜局一課調書）

## 一一一 唐有壬之死（須磨彌吉郎）

105

### 第四節 幣制改革

- 一一二 幣制改革（対英借款）問題と支那の情勢（参謀本部） ..... 115  
一一三 支那幣制改革問題に関する大蔵省湯本国庫課長談話要領 ..... 116

### 第五節 華北自治運動と冀東特殊貿易

- 1 冀東・冀察両政権の成立

- 一一四 南北支那独立問題を中心とする出先関係機関の情勢判断要旨（参謀本部） ..... 115  
一一五 北支自治運動の推移（参謀本部） ..... 116  
一一六 天津鎖聞（久保田久晴海軍大佐） ..... 117  
一一七 冀東防共自治政府組織宣言および組織大綱 ..... 118  
一一八 華北自治運動に関する陸軍電 ..... 119

一 陸軍次官→閩東軍參謀長、支那駐屯軍參謀長（陸満六七八四）二 陸軍次官→閩東軍參謀長、支那駐屯軍參謀長、  
北平、上海、南京、武官（陸満六八〇）三 陸軍次官→閩東軍參謀長、支那駐屯軍參謀長、南京北平、上海、武官（陸満六  
八四）四 陸軍次官→閩東軍參謀長、支那駐屯軍參謀長、北平、濟南、上海、南京武官（陸満七〇〇）五 陸軍次官→  
閩東軍參謀長、天津軍參謀長、北平、濟南、上海、南京武官（陸満七〇八）六 陸軍次官→支那駐屯軍參謀長（陸満一三三）

- 2 冀東政府の特殊貿易

- 一一九 支那の密輸問題に就て（参謀本部）

- 三〇 最近北支の一般情勢に就て（參謀本部） ..... 一毛
- 三一 北支に於ける不正規貿易就中冀東政府の輸入貨物に対する特種徵稅に関する意見（曾禰益） ..... 一〇
- 三二 北支密輸入問題の經緯（外務省東亞局第一課） ..... 一四
- 三三 冀東沿海よりの密輸入に関する調査並其及ぼす影響に就ての考察（青島日本商工会議所） ..... 一六
- 三四 北支特殊貿易の現状（曾禰益） ..... 一六
- 第五節 成都・北海兩事件
- 三五 成都總領事館再開問題（軍艦保津） ..... 一〇
- 三六 成都其他排日不祥事件（「昭和十一年度外務省執務報告」より） ..... 一〇
- 三七 北海事件報告（南遣部隊司令部） ..... 一四
- 三八 北海（支那）事件経過概要（軍令部第二課） ..... 一〇
- 第七節 川越・張羣会談
- 三九 昭和十一年九月五日付有田外相→川越大使暗第2331・2344・2355号電（第一次訓令） ..... 一毛  
九月二十三日川越・張羣会談に於て張羣が読上げた書物 ..... かきもの  
一毛

四一	第一次訓令による日支交渉状況一覧表	一五三
四二	十月二日四相会議に於て決定の川越大使宛訓令（第二次訓令）	一五七
四三	十二月三日川越大使口上書及交渉結末覚書	一九九
四五	口上書および交渉結末覚書に関する日本と中国側往復書翰	二〇四
四六	川越・張羣会談に関する帝国政府の発表	二〇六
四七	川越・張羣会談に関する国民政府の発表	二〇八
四八	「信すべき筋よりの聞込」として国民政府が十 二月七日の各紙に左の通掲載せしめた記事	二〇九
四九	成都事件自体の解決交渉及北海漢口両事件解決 交渉（「昭和十一年度外務省執務報告」より）	二一〇
五〇	第一次訓令による会談関係の外務電	三四四
五一	一 須磨南京総領事→有田外相（第八〇三号） 二 須磨南京総領事→有田外相（第八〇四号） 三 須磨南京総領事→有田外相（第八〇六号） 四 須磨南京総領事→有田外相（第八〇九号） 五 須磨南京総領事→有田外相（第八一〇号） 六 須磨南京総領事→有田外相（第八一九号） 七 須磨南京総領事→有田外相（第八二二号） 八 須磨南京総領事→有田外相（第八二三号） 九 有田外相→須磨南京総領事（暗第一九三号） 一〇 須磨南京総領事→有田外相（第八二九号） 一一 須磨南京総領事→有田外相（第八三〇号） 一二 有田外相→須磨南京総領事（第一九四号） 一三 須磨南京総領事→有田外相（第八五〇号） 一四 須磨南京総領事→有田外相（第八五九号） 一五 松村南京総領事代理→有田外相（第八八三号） 一六 松村南京総領事代理→有田外相（第八八四号） 一七 須磨南京総領事→有田外相（第九〇三号） 一八 須磨南京総領事→有田外相（第九一二号） 一九 須磨南	三四四

京總領事→有田外相（第九一六号） 二〇 須磨南京總領事→有田外相（第九一三号） 二一 須磨南京總領事→有  
田外相（第九二四号） 二二 須磨南京總領事→有田外相（第九二九号） 二三 須磨南京總領事→有田外相（第九  
三二号） 二四 須磨南京總領事→有田外相（第九三三号） 二五 須磨南京總領事→有田外相（第九四一号）  
二六 須磨南京總領事→有田外相（第九四四号） 二七 須磨南京總領事→有田外相（第九四八号） 二八 須磨南  
京總領事→有田外相（第九五〇号） 二九 須磨南京總領事→有田外相（第九五四号） 三〇 須磨南京總領事→有  
田外相（第九六一号） 三一 須磨南京總領事→有田外相（第九六八号） 三二 有田外相→須磨南京總領事（第二  
五一号） 三三 須磨南京總領事→有田外相（第九七六号）

#### 第八節 対華政策の変遷

- 五〇 第一次北支処理要綱 ..... 二九
- 五一 海軍政策及制度研究調査委員会組織の仰裁 ..... 三一
- 五二 國策要綱（海軍中央部） ..... 三四
- 五三 帝国国防方針・用兵綱領第三次改訂 ..... 三五
- 五四 国防国策大綱（參謀本部） ..... 三六
- 五五 国策大綱決定の経緯（上村伸一記） ..... 三七
- 五六 國策の基準（五相決定） ..... 三八
- 五七 帝国外交方針（四相決定） ..... 三九
- 五八 対支実行策 ..... 四〇
- 五九 第二次北支処理要綱（関係諸省間決定） ..... 四一

六〇	時局委員会設立に関する件（「昭和十一年外務省度執務報告」より）	三二
六一	対支政策の検討（案）（参謀本部第一課）	三三
六二	日支国交調整要領（石原莞爾大佐）	三四
六三	冀東の指導開発に關する私見	三五
六四	帝国外交方針改正意見（参謀本部第二課）	三六
六五	対支実行策改正意見（参謀本部第二課）	三七
六六	帝国外交方針及対支実行策改正に関する理由竝支那觀察の一端（参謀本部第二課）	三八
六七	陸軍省に対し対支政策に関する意見表示（参謀本部）	三九
六八	対支方策再検討に関する意見（横井忠雄海軍大佐）	四〇
六九	対支政策（軍令部次長案）	四一
七〇	楠本「實隆」大佐の対支政策意見	四二
七一	対支実行策に就て（横井忠雄海軍大佐）	四三
七二	第三艦隊參謀長の華北巡視所見（三月八日・第三艦隊參謀長→軍務局長、軍令部第一部・第三部長機密第五四八番電）	四四
七三	「対支実行策」及「第二次北支処理要綱」の調整に關する件（外務省太田事務官私案）	四五

七四	海軍の対支実行策案（海軍省部）	三七
七五	対支実行策（四相決定）	四〇〇
七六	北支指導方策（四相決定）	四〇一
	第九節 中國側の高姿勢	
七七	日支関係の現状及将来（須磨彌吉郎）	四〇二
七八	須磨南京総領事帰朝談要旨	四七
七九	情報綜合附所見（軍令部第三部長）	四九
八〇	児玉「謙次」訪支使節談	五三
八一	税警団山東移駐に就て（田尻穰）	四三
八二	税警団山東入経緯側面觀（田尻穰）	四九
八三	海軍の山東問題対策意見（横井忠雄海軍大佐）	五三
八四	税警団問題に関する大鷹「正次郎」総領事の第一六五号電	五五
一	熱河作戦機密作戦日誌抄（森赳少佐）	四〇
二	内蒙工作	
	第一節 発端、李守信・徳王の起用	

一月二十一日徳王起用 二日一日崔興武帰順問題 二月三日開魯軍に就て

二 「熱河作戦」機密作戦日誌抜萃（関東軍參謀部第二課）……………四四

一 五月五日 軍參謀長→次官・次長（関電第五四五号） 二 五月十日 次官→軍參謀長（陸満第五〇三号）

三 「熱河北支作戦の経験」抜萃（秋山紋次郎大尉）……………四五

第二節 初期内蒙工作の推移

四 暫行蒙古人指導方針要綱案（関東軍參謀部）……………四七	
五 蒙古国建設に關する意見（松室孝良大佐）……………四九	
六 蒙古人有力者名簿（承德特務機関長松室孝良）……………五〇	
七 対察施策（関東軍參謀部）……………五一	
八 满洲国隣接地方占領地統治案（齐々哈爾特務機関長松室孝良）……………五二	
第三節 内蒙工作の進展・察東事件	
九 対『满洲国外、内蒙古』策意見具申（盤井文雄少佐）……………五三	
一〇 宋哲元軍の熱河侵入問題（外務省東亜局第一課）……………五九	
一一 土肥原・秦徳純協定（察哈爾協定）……………六〇	
一二 対内蒙施策要領（関東軍參謀部）……………六一	
一三 北支及内蒙に對する中央部の指導……………六二	

第四節 綏遠事件

- 一四 察東事変（松井忠雄大尉手記）……………三〇一  
一五 対蒙（西北）施策要領（関東軍參謀部）……………三〇二  
一六 対内蒙施策実施要領（陸軍省部決定）……………三〇七  
  
一七 綏遠蒙政会暫行組織大綱（関東軍參謀部）……………三〇九  
一八 内蒙古工作の現状に就て（関東軍參謀部）……………三一〇  
一九 綏遠戰備強化、梅力更廟事件……………三一七  
  
一 中根領事代理→有田外相（第一七一号）二 中根領事代理→有田外相（第一七三号）三 武藤書記官→有田  
外相（第一三二号）四 武藤書記官→有田外相（一三九号）五 武藤書記官→有田外相（第一四一号）六 綏  
遠機関→関東軍參謀長 七 上海武官→關東軍參謀長……………三一九  
  
二〇 察哈爾方面視察報告（駐滿海軍部）……………三二七  
二一 「綏遠事件始末記」抜萃（松井忠雄大尉手記）……………三三三  
二二 綏遠時局に關する蒙古、綏遠當局の宣伝戦（桑原重遠海軍武官輔佐官）……………三三九  
二三 内蒙古軍ノ姪遠武力行動（関東軍參謀長→次官、次長宛電）……………三四三  
二四 綏遠問題の重要性（昭和十一年十一月十九日東京朝日新聞）……………三四七  
二五 関東軍當局談（関東軍司令部第二課高級參謀）……………三五三  
二六 綏東問題に対する中國側の反響（憲兵司令官中島今朝吾）……………三五六

## 二七 綏遠事件に關する海軍情報記録

一五八

一 綏遠問題に就て（在上海佐藤海軍武官）

一五六

二 (イ) 西北辺防軍委員會組織と対蒙作戦（在北平桑原海軍武官輔佐官）

一五六

(ロ) 支那側の入手せる内蒙軍の情況（北平桑原海軍武官輔佐官）

一五三

二八 綏遠問題（軍令部）

一五七

二九 綏遠事件參加飛行機の行動に關する件通報（旅順要港部參謀長）

一五五

三〇 内蒙時局対策案

一〇九

三一 西安事變対策要綱（陸軍省）

一〇七

三二 内蒙軍整備要領案（陸軍省部決定）

一〇九

三三 事件收拾ニ関スル德王通電

一一一

三四 蒙古工作の過古の經緯及将来に於ける軍の方針（関東軍參謀部）

一六三

三五 綏遠事件情報陸軍電

一六四

一 太原河野中佐→參謀次長 二 北平松室少將→次官、次長 三 北機松室少將→次官、次長 四 南京雨宮中佐

一六九

↓參謀次長 五 関東軍參謀長→次官、次長 六 上海大使館附武官→次官、次長 七 上海大使館附武官→次官、

一六九

次長 八 南京雨宮中佐→次官、次長 九 南京雨宮中佐→次官、次長 一〇 南京雨宮中佐→次官、次長 一一

一六一

上海大使館附武官→次官、次長 一二 北平松室少將→次官、次長 一三 北平輔佐官→次官、次長 一四 漢口渡

一六一

中佐→次官、次長 一五 北平輔佐官→次官、次長 一六 南京雨宮中佐→次官、次長 一七 南京雨宮中佐→次官、

一六一

三六 同 海軍電

一六〇

- 一 南京中原武官→次官、次長（機密第一五八番電） 二 北平桑原輔佐官→次官、次長（燕第六二番電） 三 北平桑原輔佐官→次官、次長（機密第二四番電其ノ一、二） 四 北平桑原輔佐官→次官、次長（機密第二五番電）
- 五 北平桑原輔佐官→次官、次長（機密第三三番電其ノ一、二） 六 不詳 七 上海特務機關首席武官→次官、次長（機密第一一二番電） 八 上海特務機關首席武官→次官、次長（機密第二三番電親展） 九 北平桑原輔佐官→次官、次長（燕普第六六番電） 一〇 北平桑原輔佐官→次官、次長（機密第二三五番電） 一一 北平輔佐官→軍務局長、軍令部三部長（機密第二三四番電其ノ一極秘親展） 一二 北平輔佐官→軍務局長、軍令部三部長（機密第二三四番電其ノ二） 一三 南京中原武官→次官、次長（機密第一七一番電） 一四 南東中原武官→次官、次長（京第七六番電其ノ一、二） 一五 北平桑原輔佐官→次官、次長（機密第二三六番電） 一六 上海特務機關首席武官→次官、次長（機密第一六番電親展） 一七 大使館附武官→次官、次長（機密第三五七番電） 一八ノ一 駐滿海參謀長→軍務局長、軍令部三部長（機密第三二七番電其ノ一） 一八ノ二 駐滿海參謀長→軍務局長、軍令部三部長（機密第三二七番電其ノ二） 一九 北平桑原輔佐官→次官、次長（機密第二三九番電） 二〇 天津久保田武官→次官、次長（機密第一六七番電其ノ一、二） 二一ノ一 旅要參謀長→軍務局長、軍令部三部長（機密第五一番電其ノ一、二） 二二ノ二 旅要參謀長→軍務局長、軍令部三部長（機密第五一番電其ノ三） 二二 駐滿海參謀長→軍令部三部長、軍務局長（機密第五番電） 二三 南京中原武官→次官、次長（京第八二番電） 二四 南京中原武官→次官、次長（京第八三番電） 二五 駐滿海軍部參謀長→軍令部三部長、軍務局長（機密第六番電其ノ一、二） 二六 駐滿海軍部參謀長→次官、次長（機密第一〇番電） 二七 南京中原武官→次官、次長（京第八四番電） 二八 上海特務機關首席武官→次官、次長（機密第一二番電） 二九 北平桑原輔佐官→次長（機密第二四〇番電） 三〇ノ一 天津久保田武官→次官、次長、參謀長（機密第一七一番電其ノ一、二） 三〇ノ二 天津久保田武官→次官、次長、參謀長（機密第一七一番電其ノ三） 三一 北平桑原輔佐官→次官、次長（機密第二四四番電） 三一 駐滿海軍部參謀長→軍務局長、軍令部三部長（機密第一五番電親展） 三三 駐滿海參謀長→軍務局長、軍令部三部長（機密第一五番電） 三四 南京中原武官→次官、次長（京第四番電） 三五 南京外交部→駐日支那大使

- 一 中根領事代理→有田外務大臣（第二三七号ノ一、二） 二 中根領事代理→有田外務大臣（第二六七号ノ一、二）  
 三 中村總領事→有田外務大臣（第五三六号） 四 須磨總領事→有田外務大臣（第九二七号） 五 加藤書記官→  
 有田外務大臣（第六一号） 六 加藤書記官→有田外務大臣（第六一三号） 七 加藤書記官→有田外務大臣（第  
 六一五号） 八 中根領事代理→有田外務大臣（第二七八号） 九 中根領事代理→有田外務大臣（第二八〇号）  
 一〇 須磨總領事→有田外務大臣（第九三一号） 一一 中村總領事→有田外務大臣（第五四五号） 一二 中根領  
 事代理→有田外務大臣（第二八二号） 一三 三浦總領事→有田外務大臣（第四二〇号） 一四 須磨總領事→有田  
 外務大臣（第九三七号） 一五 中村總領事→有田外務大臣（第五四八号） 一六 内田總領事→有田外務大臣（第  
 二一号） 一七 若杉總領事→有田外務大臣（第五四〇号） 一八 川越大使→有田外務大臣（第八二五号）  
 一九 若杉總領事→有田外務大臣（第五三九号ノ一、二） 二〇 中根領事代理→有田外務大臣（第二九三号） 二一  
 中根領事代理→有田外務大臣（第二九二号） 二二 加藤書記官→有田外務大臣（第六二六号） 二三 加藤書記官  
 ↓有田外務大臣（第六三三号） 二四 須磨總領事→有田外務大臣（第九五〇号） 二五 若杉總領事→有田外務大  
 臣（第五五四号ノ一、二） 二六 中根領事代理→有田外務大臣（第三〇四号） 二七 中根領事代理→有田外務大  
 臣（第三〇七） 二八 吉田大使→有田外務大臣（第六五七号） 二九 加藤書記官→有田外務大臣（第六四〇号）  
 三〇 三浦總領事→有田外務大臣（第四一九号） 三一 中根領事代理→有田外務大臣（第三二一号） 三二 若杉  
 總領事→有田外務大臣（第五五六号ノ一、二） 三三 須磨總領事→有田外務大臣（第九七八号ノ一、二） 三四  
 中根領事代理→有田外務大臣（第三二二号） 三五 中根領事代理→有田外務大臣（第三二四号） 三六 川越大使  
 ↓有田外務大臣（第九五四号） 三七 三浦總領事→有田外務大臣（第四二六号） 三八 中根領事代理→有田外務  
 大臣（第三一九号） 三九 中根領事代理→有田外務大臣（第三二〇号） 四〇 加藤書記官→有田外務大臣（第六  
 六四号ノ一、二） 四一 加藤書記官→有田外務大臣（第六六九号） 四二 川越大使→有田外務大臣（第九七〇  
 号） 四三 中根領事代理→有田外務大臣（第三二四号） 四四 加藤書記官→有田外務大臣（第六七二号） 四五  
 中根領事代理→有田外務大臣（第三二三号） 四六 中根領事代理→有田外務大臣（第三二八号） 四七 加藤書記  
 官→有田外務大臣（第六七五号） 四八 若杉總領事→有田外務大臣（第五八六号） 四九 川越大使→有田外務大  
 臣（第九九六号） 五一 堀内總領事→有田外務大臣（第五四七号） 五一 須磨總領事→有田外務大臣（第一〇二  
 号） 五二 加藤書記官→有田外務大臣（第六七九号） 五三 加藤書記官→有田外務大臣（第六八〇号）

加藤書記官→有田外務大臣（第六八一號） 五五 中根領事代理→有田外務大臣（第三三六號） 五六 中根領事代理→有田外務大臣（第二二號） 五七 中根領事代理→林外務大臣（第四〇號） 五八 中根領事代理→林外務大臣（第四一號）

三八 錫拉穆林廟殉難烈士芳名（昭和十一年十二月九日）……交一

錫拉穆林廟殉難烈士碑文（昭和十四年七月吉日）盛島角房撰……交一

### 三 国防国策

#### 第一節 石原構想の展開・戦争準備計画

- |                                |    |
|--------------------------------|----|
| 一 軍事上より見たる皇國の国策並国防計画要綱（石原莞爾大佐） | 六五 |
| 二 無題（満洲国育成構想）（石原莞爾大佐）          | 六七 |
| 三 無題（皇國現下の国策）（石原第二課長）          | 六八 |
| 四 無題（為參謀次長）（石原第二課長）            | 六九 |
| 五 無題（為今村參謀副長）（石原第二課長）          | 七〇 |
| 六 新関東軍司令官植田大将に対する參謀總長口演要旨      | 七一 |
| 七 新関東軍司令官植田大将に対する參謀次長口演要旨      | 七二 |
| 八 戰爭發展史要綱（石原戰爭指導課長）            | 七三 |
| 九 第二課業務進捗計画（參謀本部第二課）           | 七四 |

一〇 総動員第三次期間計画設定の為資源取得（輸入を含む）	空
を胸算し得べき範囲決定に關する要望（參謀本部第一課）	六〇
一一 満洲國に關する要望（參謀本部）	六〇
一二 戰爭準備の為産業開発に關する要望（參謀本部）	六一
一三 戰爭準備計画方針（參謀本部第二課）	六一
一四 戰爭準備の為帝国の飛行機及兵器工業を速に	六一
満洲へ進出せしむる為の要望（參謀本部）	六三
一五 内閣更迭の場合陸軍大臣の入閣条件として要求すべき事項（參謀本部）	六四
一六 滿洲（朝鮮を含む）に陸軍用飛行機製作力の	六四
主力を施設するの必要に就て（參謀本部第一部）	六五
一七 対ソ戦爭指導計画大綱（參謀本部第二課）	六六
一八 <small>自昭和十六年度至昭和十七年度</small> 満洲國戰爭準備指導計画	六七
第二節 国力造成・産業五ヶ年計画	
一九 日滿財政經濟研究会業務報告書・同目録（宮崎正義）	六八
二〇 日滿財政經濟調査会（石原莞爾）	六九
二一 滿洲開發方策綱要（陸満密第二八九号）	七〇

二三一	満洲國第二期經濟建設要綱（關東軍司令部）	七八
二三三	満洲開發五年計画に對する目標案（陸軍省軍務課）	七二
一二四	満洲產業五ヶ年計画取扱要領	七七
二五	満洲產業開發五年計画綱要（關東軍司令部）	七九
二六	重要産業五年計画要綱（陸軍省）	七〇
二七	重要産業五ヶ年計画要綱実施に關する政策大綱（案）（陸軍省）	七一
二八	軍需品製造工業五年計画要綱（陸軍省）	七一
二九	満洲重工業確立要綱（閣議決定）	七一
三〇	生産力拡充計画要綱（閣議決定）	七三
	第三節 日滿共同建設方策	
三一	満洲國指導に關連する軍顧問組成に對する研究意見（陸軍省軍事課）	七八
三二	陸軍大臣より竹内・荒川両顧問に對する談話要旨（陸軍省軍務局）	七八
三三	軍務局長と板垣參謀副長との連絡事項（陸軍省軍務局）	八一
三四	林陸軍大臣満洲視察に關する重要案件（案）（陸軍省軍務局）	八三
三五	林陸軍大臣より松岡満鉄新總裁に對する懇談要旨（陸軍省軍務局）	八五
三六	満洲國陸軍指導要綱（改正案）（陸軍省軍事課）	八六

三七	日満經濟共同委員設置に関する協定	一〇
三八	治外法権撤廃要綱案（陸軍省軍務局）	一一
三九	満洲国に於ける帝国の治外法権の撤廃及南満洲鉄道 附屬地行政権の調整乃至移譲に関する閣議決定	一一
四〇	同盟国軍隊ノ駐屯ニ伴フ軍事法規適用等ニ関スル件	一一
四一	満洲国における帝国の治外法権の撤廃及南満洲鉄道 附屬地行政権の調整乃至移譲に関する実行方針の件（閣議決定）	一七
四二	満洲に駐屯する日本国軍の軍事関係法規適用に関する公換公文	一九
四三	軍務局長より板垣參謀副長への懇談事項（満蒙政、經関係）（陸軍省軍務局）	二〇
四五	満洲国概観（陸軍省軍務局）	二〇
四五	今井軍務局長より東條関東憲兵隊司令官 に対する懇談事項（満蒙関係）（陸軍省軍務局）	二三
四六	満洲経済建設に関する陸軍次官の懇談要旨	二四
四七	同右席上「満洲関係の質問応答」	二六
四八	川島陸軍大臣の松岡満鉄總裁との対談要綱案（陸軍省軍務局）	二六
四九	対滿重要国策の確立に関する件（陸軍省部戦争指導課研究案）	二九